



Red Hat Network Satellite 5.5

リリースノート

Red Hat Network Satellite

エディション 1

Red Hat Network Satellite 5.5 リリースノート

Red Hat Network Satellite
エディション 1

Daniel Macpherson
Red Hat Engineering Content Services
dmacpher@redhat.com

Lana Brindley
Red Hat Engineering Content Services
lbrindle@redhat.com

Athene Chan
Red Hat Engineering Content Services
achan@redhat.com

法律上の通知

Copyright © 2012 Red Hat, Inc.

This document is licensed by Red Hat under the [Creative Commons Attribution-ShareAlike 3.0 Unported License](#). If you distribute this document, or a modified version of it, you must provide attribution to Red Hat, Inc. and provide a link to the original. If the document is modified, all Red Hat trademarks must be removed.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux ® is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java ® is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS ® is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL ® is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js ® is an official trademark of Joyent. Red Hat Software Collections is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack ® Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

RHN Satellite リリースノートへようこそ

目次

第1章 主な機能	3
第2章 主な変更点	4
第3章 機能強化	5
第4章 主な修正点	7
第5章 既知の問題	9
第6章 API 情報	10
付録A 改訂履歴	16

第1章 主な機能

Red Hat Network Satellite 5.5 の一部としてリリースされる主な機能は次の通りです。

IPv6 の有効化

RHN Satellite、RHN Proxy、RHN クライアント/ツールはすべて、IPv6 環境内で動作します。



重要

制限: **satellite-sync** がコンテンツをダウンロードするためには、Satellite は RHN Hosted/Classic への外部通信に、依然として IPv4 を必要とします。以下は IPv6 ではサポートされていません。

- PXE プロビジョニング
- モニタリング
- Solaris クライアント

以前の Red Hat Enterprise Linux anaconda インストーラーでは、IPv6 ではプロビジョニング/インストールがされません。IPv6 で anaconda インストーラーが機能する例については、Red Hat Enterprise Linux リリースノートを確認してください。

OpenSCAP サポート

RHN Satellite は、Satellite 環境内で稼働する Red Hat Enterprise Linux システムのセキュリティー監査状態 (Security Content Automation Protocol または SCAP) レポートを提供するようになりました。これには、Red Hat Enterprise Linux 5.8 およびそれ以降と Red Hat Enterprise Linux 6.2 およびそれ以降のクライアントサポートが含まれます。

第2章 主な変更点

i386 アーキテクチャーサポート

Red Hat Network Satellite および Proxy 5.5 は、引き続き x86 (64 ビット) マシンと s390x アーキテクチャーへのサポートを提供します。Satellite および Proxy による i386 (32 ビット) アーキテクチャーのサポートは提供されなくなります。

[RHN Satellite](#) および [Proxy Server のライフサイクル](#) にあるように、Red Hat Network Satellite および Proxy 5.4 は、2017 年 3 月末日まで i386 (32 ビット) をサポートします。

第3章 機能強化

Red Hat Network Satellite 5.5 に追加された改善点および機能強化は、次の通りです。

Clone-by-date

Red Hat Enterprise Linux チャンネルからコンテンツ (Errata) が利用可能になった日付に基づいて、ユーザーはカスタムでクローンされた Red Hat Enterprise Linux チャンネルの作成と維持ができません。RHN Satellite 5.5 では、**spacewalk-clone-by-date** はユーザーがセキュリティーエラーのみをクローンできるように強化されました。

結合ネットワークインターフェースでのプロビジョニング

RHN Satellite は、Red Hat Enterprise Linux Systems の再プロビジョニングに加えて、新規の Satellite インストール用に結合ネットワークインターフェースを定義する機能をサポートします。

新規インストールでは、キックスタートプロファイル内の結合ネットワークは、この Satellite インストール前にシステム上でネットワークが設定されているかどうかにかかわらず、WebUI での設定が可能です。



注記

Red Hat Enterprise Linux のインストーラーである Anaconda は、結合ネットワークをサポートしません。インストール時にインストーラーが使用するのはネットワークカード 1 枚のみです。結合ネットワークはインストール後に設定されます。

API の追加

本リリースで注目の追加 API は次の通りです。

- [BZ#760352](#)

この API の追加により、システムは API 経由でシステム状態レポートにアクセスできます。

- [BZ#782582](#)

この API 機能は、Web インターフェースを使うことなくスケジュールされたアイテムのアーカイブ化を行います。

- [BZ#773113](#)

この API 機能強化により、ユーザーは API で **ks.cfg** ファイルを保存できます。

データベースメンテナンスツール

- [BZ#552628](#)

管理者が埋め込みデータベースのパスワードを変更できます。

設定ファイルの変更

- [BZ#621531](#)

/etc/rhn/default 内の設定ファイルは、**/usr/share/rhn/config-defaults** に移動されています。構成設定を編集するには、**/etc/rhn/rhn.conf** を使いま

す。`/etc/rhn/rhn.conf` への変更は、`/usr/share/rhn/config-defaults` 内のデフォルト設定値に優先します。

第4章 主な修正点

Red Hat Network Satellite 5.5 でリリースされる主なバグ修正と回避策は次の通りです。

- [BZ#719629](#)

Satellite 更新インストールでは、install.pl スクリプトは `/etc/rhn/rhn.conf` 内のプロキシ設定を保持しませんでした。Satellite アップグレードのインストールでは、正しいプロキシ設定を含む応答ファイルの作成指示を含め、この応答ファイルを Satellite アップグレード内で使用することで、これを解決しています。

- [BZ#769908](#)

複数層の RHN Proxy Server 設定では、認証トークンは正しく処理されませんでした。認証トークンを再生成するコードが、すべてのメソッドで html 応答の **X-RHN-Proxy-Auth-Error** ヘッダーに依存していました。これが解決され、現在は複数層の設定内の RHN Proxy Server 同士で auth 情報は正しく渡されています。

- [BZ#695257](#)

最新のアップグレード可能なパッケージを含むエラータのみがシステム更新に提供されており、このパッケージに古いセキュリティーエラータと新しく重大でないエラータがある場合は、重大でないものがアップグレード対象としてシステムに提供されていました。この修正では、すべてのエラータがアップグレード対象としてシステムに提供されます。システムは、すべてのセキュリティーエラータを確認できます。

- [BZ#807875](#)

以前は、**taskomatic** および **rhn-search** の java heapdump ディレクトリーは、`/usr/sbin` がデフォルトとなっていたましたが、これではディレクトリーはすぐにいっぱいになっていました。現在は、java heapdump ディレクトリーは `/var/crash` がデフォルトとなっています。

- [BZ#630953](#)

Satellite データベースでの重複エントリー、特に **rhnCPU** テーブルは、内部サーバーエラーを引き起こしていました。一意なインデックスの作成前に全行が一意であることを確認する修正が実装されました。Satellite データベースでは、重複するエントリーは出てこないはずですが。

- [BZ#674071](#)

大型の表で多くの監視プローブを実行すると、RHN プローブはデッドロックのエラーメッセージという結果になります (ORA-00060)。

- [BZ#828795](#)

子チャンネルを削除する際に、データベース内の関連行は子チャンネルと共に自動的に削除されませんでした。子チャンネルの削除は、未処理の例外エラーとなっていました。表作成時に oracle データベースにルールが追加され、これにより削除されるチャンネルに合う関連行が正確に削除されるようになりました。関連チャンネルのデータベースのデータは現在、正確に削除されます。

- [BZ#705154](#)

Satellite web インターフェースのドロップリストにおける分類指示は誤って表示されており、"Managing Channels" インターフェースで混乱を引き起こしていました。修正により perl `channel-select-dropdowns` を更新し、java ページと同様の階層分類を使用するようになりました。この階層指示は、統一的に反映されます。

- [BZ#695276](#)

クライアントシステムが RHN Proxy サーバー経由で Satellite Server に登録される際に、Cobbler 転送のために koan は Satellite Server から直接キックスタートファイルをダウンロードしようとします。これにより、URLError が発生します。Cobbler は現在、koan が cobbler API から何かを要求すると、サーバーのホスト名をチェーンの最初のプロキシのホスト名で置き換えます。

- [BZ#742905](#)

単一スレッド内のリクエストが複数スレッドのタスクに割り込むと、**satellite-sync** がダウンロードをロックアップします。トレースバックを送出するスレッドは現在、ロックをリリースするので、他のスレッドはダウンロードを継続できます。

第5章 既知の問題

RHN Satellite Server 5.5 で見つかった既知の問題および回避策

- SELinux の enforcing モードでの監視は、テクニカルプレビューとして Red Hat Enterprise Linux 5 と Red Hat Enterprise Linux 6 の RHN Satellite および RHN Proxy のインストールで引き続き提供されます。

第6章 API 情報

新たな API

- **channel**
 - **listVendorChannels**

ユーザー組織に権利があるベンダーソフトウェアチャンネルすべてを一覧表示します。

- **channel.software**
 - **removeErrata**

特定のエラータリストを特定のチャンネルから削除します。
 - **mergeErrata**

特定の開始/終了日に基づいて、あるチャンネルからのエラータすべてを別のチャンネルにマージします。
 - **removeRepo**

リポジトリを削除します。
 - **updateRepoURL**

リポジトリソース URL を更新します。
 - **updateRepoLabel**

リポジトリラベルを更新します。
 - **updateRepo**

ContentSource リポジトリを更新します。
 - **getRepoDetails**

特定のリポジトリの詳細を返します。

- **configchannel**
 - **getEncodedFileRevision**

指定された設定ファイルのバージョンを取得します。
 - **lookupFileInfo**

パスとチャンネルのリストがある場合、最新バージョンのパスの詳細を返します。

- **system.scap**
 - **listXccdfScans**

特定システム向けの終了した OpenSCAP スキャンのリストを返します。

- **getXccdfScanDetails**

選択した OpenSCAP XCCDF スキャンの詳細を取得します。

- **getXccdfScanRuleResults**

特定 OpenSCAP XCCDF スキャン向けの RuleResults の完全リストを返します。

- **scheduleXccdfScan**

OpenSCAP スキャンのスケジュール管理をします。

- **system**

- **provisionVirtualGuest**

指定ホスト上でゲストにプロビジョニングを行います。この API メソッドは、作成におけるゲストのスケジュール管理を行い、ホストがチェックインするとプロビジョニングプロセスを開始します。または、OSAD が有効な場合、即座に開始します。このメソッドのデフォルトは、`mac_address=random`、`memory=512MB`、`vcpu=1`、`storage=3GB` です。

- **getSystemCurrencyMultipliers**

システム状態スコア乗数を取得します。

- **getSystemCurrencyScores**

システム状態スコア乗数を取得します。

- **getUuid**

特定システム ID から UUID を取得します。

- **kickstart.profile**

- **getCfgPreservation**

キックスタートプロファイル用の `ks.cfg` 保存オプションを取得します。

- **setCfgPreservation**

キックスタートプロファイル用の `ks.cfg` 保存オプションを設定します。

- **satellite**

- **isMonitoringEnabled**

Satellite 上でモニタリングが有効な場合、API メソッドが "True" を返します。

- **isMonitoringEnabledBySystemId**

Satellite 上でモニタリングが有効な場合、API メソッドが "True" を返します。

- **schedule**

- **archiveActions**

特定リスト内の全アクションをアーカイブ化します。

- **system.search**

- **uuid**

この UUID に合致するシステムを一覧表示します。

修正済み API (インターフェース変更のみ)

- **channel.software.clone**

推奨される `gpg` パラメーターは次の通りです。`gpg_key_url`、`gpg_key_id`、`gpg_key_fp`。(古い `gpg_url`、`gpg_id`、`gpg_fingerprint` は互換性目的で維持されます。)

- **configchannel.createOrUpdatePath**、**system.config.createOrUpdatePath**

'`binary`' 属性を受け入れ、バイナリーアップロードをサポートします。

- **errata.getDetails**

'`errataFrom`' 属性を返します。

- **errata.setDetails**、**errata.create**

'`errataFrom`' 属性を受け入れます。また、バグ構造内の '`url`' 属性も受け入れます。

- **packages.listChangelog**

`changelog`を表すマップの配列ではなく、`changelog` スtringを返します。

- **system.listSubscribedChildChannels**、**system.getSubscribedBaseChannel**、**kickstart.listKickstartableChannels**、**channel.software.getDetails**、**channel.software.listChildren**、**channel.software.associateRepo**、**channel.software.disassociateRepo**

`yumrepo_source_url` および `yumrepo_label` ではなく、`contentSources` 構造のリストを返します。

- **configchannel.getFileRevisions**、**configchannel.getFileRevision**、**configchannel.getEncodedFileRevision**、**configchannel.createOrUpdatePath**、**configchannel.lookupFileInfo**、**system.config.lookupFileInfo**、**system.config.createOrUpdatePath**

'`contents_enc64`' 属性を返します。

- **channel.software.listErrata**、**system.getRelevantErrata**、**system.getRelevantErrataByType**

'`issue_date`' および '`update_date`' 属性を返します。

- **system.getNetworkDevices**

IPv6 アドレス構造のリストを返します。

- **system.comparePackages**、**system.comparePackageProfile**

'package_arch' 属性を返します。

- **system.getScriptResults**、**system.getScriptActionDetails**

'output_enc64' 属性を返します。

- **system.listPackages**

'id' 属性を返します。

- **system.getNetwork**

'ip6' 属性を返します。

最近廃止された API

- **channel.listRedHatChannels**

channel.listVendorChannels が置換。

最近削除された API

API は削除されることは滅多にありません。新たな機能が必要な場合は、新しい API 呼び出しが導入されます。

- なし

API バグ

API 影響を与え、Red Hat Network Satellite 5.5 で修正された Bugzilla のリストは次の通りです。

- [BZ#698940](#)

activationkey.addChildChannels API 呼び出しは、子チャンネルを追加する前にアクティベーションキーに親チャンネルが存在するかどうかをチェックします。これが検出できない場合、例外となります。最新バージョンでは、**activationkey.addChildChannels** は、ベースチャンネルセットがないアクティベーションキーでの子チャンネルの作成を可能にしています。

- [BZ#726114](#)

Satellite は、ディレクトリーの作成のために **macro-start-delimiter** および **macro-end-delimiter** パラメーターを無視するべきですが、代わりにトレースバック障害を引き起こしています。**configchannel.createOrUpdatePath** での修正により、ディレクトリーと動作している場合はマクロデリミタを無視します。

- [BZ#735381](#)

以前は、**system.setDetails** API 経由で **auto_errata_update** をオンにしてもイベントを正確にスケジュール管理できませんでした。今回の修正で、**auto_errata_update** が **system.setDetails** API 経由で有効化される場合、エラータ更新のスケジュール管理が可能になります。

- [BZ#736661](#)

複数システムの同一コンテンツがある `system.config.createOrUpdatePath` を呼び出すと、例外を引き起こし、Satellite グラフィカルインターフェースでは削除できない、一貫性を欠く設定ファイルが残りました。今回の修正により、`system.config.createOrUpdatePath` がデッドロックと例外を引き起こすことを防ぎます。

- [BZ#741477](#)

RHNSERVERDMI の表の "System" フィールドが無効な場合、API `system.getDmi()` メソッドはデータを何も返しませんでした。この問題を起こしていた無効な `dmi.getBios()` API 呼び出しが修正され、RHNSERVERDMI に空白行があっても `system.getDmi()` は値を返します。

- [BZ#743434](#)

RHNSERVERDMI の表の "BIOS_VERSION" フィールドが無効な場合、API `system.getDmi()` メソッドはデータを何も返しませんでした。この問題を起こしていた無効な `dmi.getBios()` API 呼び出しが修正され、RHNSERVERDMI に空白行があっても `system.getDmi()` は値を返します。

- [BZ#760352](#)

System Currency が、Web インターフェースレポートしか生成しませんでした。API 呼び出しが **System Currency** に追加され、System Currency による API レポート生成が可能になりました。

- [BZ#773113](#)

以前は、`ks.cfg` ファイルは、Web インターフェースのチェックボックス経由でしか保存できませんでした。新たな XMLRPC API メソッドが追加されたことで、キックスタート内の変更が API 経由で `ks.cfg` を保存可能となりました。

- [BZ#784288](#)

`system.getScriptResults` は 無効な形式の XML を返していました。今回の修正により、`system.getScriptResults` API が XML の無効な文字を送信することを防ぎます。

- [BZ#804706](#)

`deployAllSystems()` 向けの API ドキュメントは、`deployAllSystems()` メソッドを呼び出すと日付パラメータを表示しませんでした。この日付パラメータを含めるように、`deployAllSystems()` 向けの API ドキュメントが修正されました。

- [BZ#811875](#)

`system.config.listFiles` へのクエリがラベルではなくチャンネル名の場合、設定チャンネルに対して `channel_label` のコンテンツとしてクエリ実行ができませんでした。今回のリリースではこれが修正され、`system.config.listFiles` はチャンネル名ではなくチャンネルラベルを返します。

- [BZ#814642](#)

`errata.listPackages` 用の API ドキュメントは不完全なもので、実際の API リターン値の完全なアカウントングを提供していませんでした。このドキュメントは更新され、`file` および `checksum_type` を追加しています。

- [BZ#814838](#)

activationkey.listActivationKeys() が呼び出された際には、ユーザーのみが視認できるアクティベーションキーではなく、すべてのアクティベーションキーが返されていました。修正の結果、カスタムアクティベーションキーのみが表示されるようになりました。

- [BZ#816320](#)

listMyChannels は、カスタマーが作成したチャンネルの正しい `provider_name` を返さず、Red Hat チャンネルにカスタムの子チャンネルがあると、Red Hat チャンネルを一覧表示していました。本バージョンでは、API はユーザー組織が所有するチャンネルのみを返し、`provider_name` は組織名に一致します。

- [BZ#816349](#)

channel.listSharedChannels API は以前、現在の組織からだけでなく、他の組織からのチャンネルも一覧表示していました。これが修正され、共有チャンネルページと API 現在の組織からのチャンネルのみを返します。

- [BZ#816356](#)

以前は **channel.listRedHatChannels** API 出力にはカスタムチャンネルが含まれていました。今回の修正により、**channel.listRedHatChannels** API 出力には Red Hat チャンネルのみが含まれています。

- [BZ#818447](#)

Verbose logging of `caller_ip` details in the `rhn_web_api.log` ファイルの `caller_ip` 詳細の詳細ロギングが有効化されています。

- [BZ#801463](#)

バイナリーファイル処理に関する問題が、API バイナリーファイルのアップロードを妨げていました。**configchannel.createOrUpdatePath** がバイナリーファイルを処理する方法が修正され、`'binary'` 属性を受け入れるようになりました。さらに、**configchannel.lookupFileInfo** は、バイナリーファイル用の base64 エンコードされたコンテンツを返すようになっています。API バイナリーファイルのアップロードも可能になっています。

付録A 改訂履歴

改訂 1-16.2.400 Rebuild with publican 4.0.0	2013-10-31	Rüdiger Landmann
改訂 1-16.2 翻訳完成	Mon Apr 22 2013	Credit Translator's
改訂 1-16.1 翻訳ファイルを XML ソースバージョン 1-16 と同期	Tue Apr 16 2013	Terry Chuang
改訂 1-16 BZ#910713 日付に関する若干の編集	Fri Feb 15 2013	Athene Chan
改訂 1-15 BZ#910713 "主な変更点" の章を追加	Thu Feb 14 2013	Athene Chan
改訂 1-14 BZ#862270 マイナーな誤字修正	Mon Oct 24 2012	Athene Chan
改訂 1-13 BZ#862270 機能強化の章に "設定ファイルの変更" を追加	Mon Oct 22 2012	Athene Chan
改訂 1-12 Copyright の年を変更	Fri Sep 21 2012	Athene Chan
改訂 1-11 5.5 向け最終パッケージ	Fri Sep 21 2012	Dan Macpherson
改訂 1-10 5.5 向け最終パッケージ	Wed Sept 19 2012	Dan Macpherson
改訂 1-9 QA 編集を適用	Wed Sep 19 2012	Athene Chan
改訂 1-8 すべての API 属性を一つの形式に標準化	Mon Sep 10 2012	Athene Chan
改訂 1-7 若干の文法変更	Mon Sep 10 2012	Athene Chan
改訂 1-6 BZ#852959 テクニカルレビューにしたがって新たな API を編集	Mon Sep 10 2012	Athene Chan
改訂 1-5 BZ#852959 修正された API と最近廃止された API を追加	Thu Sep 6 2012	Athene Chan
改訂 1-4 BZ#852959 BZ#801463 をバグ修正に追加	Tue Sep 4 2012	Athene Chan
改訂 1-3 BZ#852959 テクニカルレビューにより修正	Mon Sep 3 2012	Athene Chan
改訂 1-2 BZ#852959 第 3 章「主な変更点」を追加	Fri Aug 31 2012	Athene Chan
改訂 1-1	Fri Aug 24 2012	Athene Chan

リリース機能を追加

改訂 1-0
発行の準備

Fri Aug 24 2012

Athene Chan